

奈良の丘だより

横浜市立奈良の丘小学校

学校教育目標

9月号

笑顔いっぱい チャレンジいっぱい 奈良の丘



- 自ら考え、進んで行動する子を育てます
- 互いに認め合い、高め合う子を育てます
- たくましく、共に生きる子を育てます

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/naranooka/>

今年の夏も・・・

校長 中 篤 弘 喜

40日間の長い夏休みが終わりました。静かで閑散としていた校舎に子どもたちが戻ってきて、今日から賑やかで活気に満ちた学校が再開しました。久しぶりに会った友だちや先生に、目を輝かせて夏休みの思い出を話している子どもたちの姿を見ていると、やはり学校の主役は子どもだと感じました。大きな事故や事件もなく、無事に再開できたことを保護者の皆様、地域の皆様に感謝申し上げます。

今年の夏も例年通り、記録的な暑さという言葉が連日報道されました。気温35度を超える猛暑日が続き、都心でも8日連続となり観測史上最高記録を更新しました。この暑さの中、子どもたちはどこで遊んでいるのかと考えてしまいました。夏休みの間、校庭や公園で遊んでいる子どもの姿は、ほとんど見かけることができませんでした。

私が子どもの頃は、朝から晩まで遊んで過ごす夏休みでした。海の近くに住んでいたのも、夏になるとよく海に遊びに行きました。他にも野球や釣り等、友だちと思いきり夏を満喫していました。その頃の記憶では、気温30度で暑い、最高気温32度と予報が出ると大変だと感じていたと思います。熱帯夜という言葉もなく、夕方になると涼しくなり、暑くて眠れないという経験は記憶にありません。

大学生の時には、初めて耳にした最高気温34度というニュースに驚いたことを今でも覚えています。最近では、35度という予報はめずらしくなくなり、32度なら涼しいという感覚にもなってしまいます。夏休みに外で子どもが元気に遊ぶことができる環境ではなくなってしまったのでしょうか。今の子どもたちが親の世代になった頃は、どうなっているのか不安になってしまいます。

20世紀から21世紀にかけ、自然環境は徐々に変化をしています。猛暑の中、外で元気に遊ぼうと、子どもに声をかけることは、無責任な言葉かもしれません。子どもにとって、夏休みは過ごしづらい自然環境に変化しているようです。

世の中ではこの夏、子どもが巻き込まれる事件もありました。自然環境だけでなく、社会環境も同様に変化しています。大人として、子どもたちを取り巻く環境をよりよくする努力とともに、環境の変化に対応できる子どもの育成にも取り組んでいきたいと思っております。